

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800174		
法人名	ヒューマンライフケア		
事業所名	グループホーム市川		
所在地	千葉県市川市須和田1-11-13		
自己評価作成日	令和3年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和3年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染拡大に伴い面会も自粛しているが、日々の様子を発信している。市川便りの発行やオンライン面会の推奨、実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ヒューマンライフケア株式会社が、すべての人を尊重し、いつでも笑顔で触れ合い、互いを思いやり、そっと支えあう「笑顔とこころ、いつでも“人”が真ん中。」を原点に置いた施設運営を目指している。「ヒューマンライフケアグループホーム市川」の職員がその想いを共有し、サービスの提供に取り組んでいる施設である。また、人材も定着しており、入居者に対して、安心かつ安定した支援に繋がっている。内科の往診頻度が高く、医師との関わりが密であり、適切な医療支援のもと、入居者の健康管理が行われている。また、医療機関とは急変時・緊急時の連携・情報交換が行えるよう対策を講じていると共に、重度化・終末期の適切な支援の実施に向け、協力体制も整備されている。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、施設近隣の散歩や敷地内での園芸活動は行っているが、その他の外出や交流活動は中止
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で外部との接触を禁止している。 自治会の掲示板・回覧板に施設の取り組みを掲示	「人生の先輩に謙虚な姿勢で臨みます。笑いの絶えない伸び伸びの輪。地域の触れいを大切にします。お話を聞くのが大好きです。季節の移り変わりを大切にします。」という施設理念を掲げている。法人理念・施設理念・運営方針等を施設内に掲示しており、職員全員が共有意識を持ちながら支援の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内清掃・手入れなど行なっている際、地域住民に挨拶を行うようにしている。	日頃から自治会や地域行事等を通じて、積極的に交流し、地域との繋がりを大切にしている。地域の中学生の職場体験・ボランティアの受け入れ・保育園児との交流等を行っており、入居者の楽しみや生活の活性化に繋げている。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対策の為、外部の人達との交流は中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様を中心に認知症への理解、見学などがあつた際にも同様にわかりやすく相違の無いよう説明を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域運営推進会議を行い状況報告。市の福祉生活課からのご意見を頂戴している。オンラインでの参加も可能	地域包括支援センター職員・家族等を構成員として2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、構成員と書面での情報交換を通して連携を図っている。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告、地域運営推進会議を行った際には報告。必要に応じてご意見を頂いている。	市の担当者とは、業務上の相談や報告を行うと共に、運営推進会議を通して、日頃から協力体制を構築している。また、市主催の研修に参加しており、サービスの向上に活かしている。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、市とは文書や電話連絡を取り合う形で連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年2回実施している。身体拘束をしている入居者様はいない。玄関は開閉時チャイム＋家族の要望もあり施錠を行っている。	身体拘束排除における指針及びマニュアルを整備すると共に、内部研修を実施する等、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、定期的に身体拘束廃止委員会を開催しており、支援方法を検討する等、身体拘束の無いケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を年1回は必ず開催し、都度ミーティングやカンファレンスなどで意見交換・勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自社で行っている研修に参加している。都度わからない時は上長に説明を仰ぎ吸収している。またそれらをプットアウトをし他職員への学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理解しやすいように説明し同意を得ている。改定時には覚書の交わし、運営推進会議での改定内容説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に外部へ説明し事業所入口に書類を置いており、毎月の職員会議等で意見・要望を検討しています。	面会や電話連絡の際に、家族から意見・要望等を確認している。また、運営推進会議を活用する等、意見・要望等を表せる機会を設けている。挙げた意見や要望等については、会議などで検討し、速やかな対応を心掛けている。今年の2月以降は、新型コロナウイルス感染対策の為、家族の面会は中止していたが、現在は、玄関での面会やオンライン面会を推奨すると共に、手紙や市川便りで日々の状況を伝える等、信頼関係構築に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議を毎月開催し、職員の意見交換の場を設けています。個々に話す時間を作り、提案や意見を聞く機会も設けています。	定期的に会議やカンファレンスを開催し、職員の意見や提案等を確認している。また、管理者や法人職員が個別に意見や思いを確認する機会を設ける等、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の管理システムを利用し、労働基準法に沿ったシフトが組まれています。時給者のキャリアアップ制度や月給者の昇給制度、資格取得後の昇給への推進も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人育成の研修や、介護技術研修等に参加したり、社外の研修にも参加できる環境作りを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の成功事例のメールやオンライン研修にも参加しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のアセスメントの時にご本人のニーズや思いを引き出せるような話しかけや傾聴に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いや心配事について話しやすい環境を作り、出来るだけ不安が取り除けるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントから本人、ご家族様が必要としている事を導き、必要に応じて自治体のサービスや地域との繋がりも利用して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて、生活の中で役割を担ってもらっているようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の面会時や電話にてコミュニケーションを図り、入居者の日常の様子を伝えながら家族とケアの方法等検討、協力を依頼している。また、面会時に一緒にゆっくり過ごせるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様が外食に連れて行ってくださったり、外泊も行っています。前もってご連絡をいただき、安心して外出していただける様に支援をしています。	知人や家族との交流継続やドライブの実施により、馴染みの人や場所等の関りを大切にしている。今年の2月以降は、新型コロナウイルス感染対策の為、外部の人達の来訪は断っていたが、現在は、玄関での面会やオンライン面会を推奨する等、継続的な交流が出来るよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を最大限に加味したうえで席次であったり、また、同郷の方を隣席にするなど配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に退去されたご家族様もホームを訪ねてくれることもあり、その後の相談もあります。近所であった時は声をかけて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の様子や発言などを基にしてスタッフ同士で常に何を求めているか検討している。	入所前に本人及び家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、必要に応じて、医師や他のサービス事業所から情報を収集し、入居者一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。入所後も情報把握に努めており、会議等で検討や確認を行う等、現状に即した支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や協力関係などから今迄の様子をお聞きし、ご入居時に出来る限り情報は職員で共有できる様、個人ファイルに管理していつでも見られる様にしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の出来事やレクリエーション等の能力はケース記録や介護日誌にて把握、バイタルチェックや排便記録にて日々の健康や心理状態を把握する様にしています		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者様の変化に応じた支援が出来る様、必要に応じて会議を行う様にしています。多くの職員に参加をして貰い、色々な意見を基にご家族様や利用者様の要望を踏まえ、納得のいく良い介護計画をご提供する様にしています。	本人や家族の意向を配慮した上で検討会議を行い、介護計画を作成している。また、医師や看護師からの意見確認も行っており、現状に即した支援内容になっている。定期的に目標の達成状況の確認や評価を実施しており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、ケース記録にて時系列に記入して、必要があれば利用者様との会話も記録する様に、職員全員で共有する様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズや対応については、その都度直ぐに対応できるようにしています。直ぐに判断出来ない事は、職員全員で話し合い、ご要望に副う支援が出来る様に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの持っている能力を把握し、ご本人が日々生活の中で自身の能力を発揮でき、安全で安心して生活できる暮らしを、支援する様心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の全体往診以外にも必要に応じてかかりつけ医と連携が取れており、外部への受診も(家族の都合のつかないとき)対応している。	内科の往診が月20日程度行われていると共に、必要に応じて歯科医による往診もあり、入居者の適切な受診支援がなされている。その他にも、希望の医療機関の受診も可能となっており、複数の医療機関と関係を密にし、情報の共有を図っている。常勤の看護師が配置されており、健康管理や服薬管理を行う等、適切な医療支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師、または管理者が入居者様に何かあればすぐに対応・連絡ができるよう体制が整えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師・管理者が担当医と情報交換をし、退院の見通しや退院後のケアについて話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に重度化した場合における対応に係る指針の説明を行い、ご家族様の希望を確認しています。また、重度化した場合はご家族様と提携医、管理者・看護師とで会議を開き、その方に合った終末期を迎えられるように取り組んでいます。	重度化・終末期においては、契約時に施設の方針を説明すると共に、意向確認や同意も得ている。必要時には、医師・看護師・職員・家族間で話し合いを行う等、現状に即した支援の実施に向け、医療連携体制の強化に取り組んでいる。身体状況の変化時には会議等を通じて、職員間で対応策の検討や支援方法の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時での対応は職員一同に周知しており、看護師・管理者にもオンコール対応できる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難・誘導の訓練・消火器の使い方などの自主訓練を行い、消防署に報告している	スプリンクラー・火災報知器・自動通報器等の消防設備を設置していると共に、8月に自主消防避難訓練を実施しており、日中及び通報訓練や消火器訓練を行う等、避難や対応方法を再確認している。2月に2回目の夜間を想定しての消防避難訓練計画が組まれている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームでは言葉遣いやプライバシーの保護、利用者を尊重した対応を心掛けている。利用者は「さんづけ」で呼び、居室に入る際には了解を得て入室するなど、プライバシーに配慮している。	プライバシー保護や接遇に関する研修を定期的実施しており、入居者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切にしている。また、個人情報保護についても、研修・会議を通して、周知徹底を図っている。日常生活では、一人ひとりに合わせた言葉掛けや支援を心掛け、その人らしい生活の実現に向け、取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせて、傾聴を大切にしながら、会話の中から、思いや希望を引き出し、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で、全てご本人のペースに合わせることは難しいですが、一人一人のペースを知り、出来る限り、ご本人のペースに合わせて過ごせるように努めています。		

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に訪問していただき好きな髪形やお洒落ができるようにしている。またご本人様らしい服装や・四季に適した洋服の選択などを行っていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年行事や月行事に合わせて楽しく食事を召し上がって頂けるよう工夫し取組んでいる 彩り、食感、盛り付けに配慮している。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立や食材の配送は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、やわらか食を導入し、食べやすさや見た目に配慮している。家族の協力を得ながら外食を行うと共に、行事食等も取り入れており、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握し食事量や水分量などの観察に努めている。また、食事形態など適切な食事提供に取組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し口腔内の異状の観察や誤嚥性肺炎の予防にも努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄のタイミングを職員が共有して、声掛け、トイレ誘導をおこなっている。排泄チェック表では水分管理も行い、自然な排泄に向けて取り組んでいます	入居者個々の排泄状況や排泄パターン及び水分・食事量を把握した上で、なるべくトイレで排泄が出来るように適切な支援を行っている。日頃から、食事・水分・運動等を工夫し、必要時には、医師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は内服薬だけではなく、乳製品も含め便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に応じて、適切かつ柔軟な入浴を支援している。必要に応じて、足浴や清拭等を実施しており、入居者の清潔保持にも努めている。	入居者の体調や希望に応じて、適切かつ柔軟な入浴を支援している。必要に応じて、足浴や清拭等を実施しており、入居者の清潔保持にも努めている。	

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠パターンを把握し夜間眠れなかった入居者様に対しては様子を観察を行い傾眠などが見られた際には居室で休んで頂ける態勢が整えられている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については研修を行い職員に周知している。また服薬時は誤薬を防ぐために2人でダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事や嗜好品など入居者様ひとりひとりを把握し介助に導入している。また入居者様の得意なことも把握しており適切な役割を与えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出を控えているが、敷地内の園芸やバルコニーに出て日向ぼっこ、コーヒーの提供を少しでも外に出れる機会を作っている。	日頃から散歩や買物等の外出支援を行う等、施設外の人達と触れ合う機会を設けている。その他にも、入居者一人ひとりの希望に沿った個別の外出を行う等、外出がより楽しめるよう取り組んでいる。今年は新型コロナウイルス感染対策の為、外出や交流活動は中止しているが、散歩や敷地内での園芸活動は実施しており、入居者の気分転換や生活活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止のため金庫に保管している。使用の際もご家族同伴か職員が介入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と取り決めをし、必要な場合は職員が電話をし入居者様に代わっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度調整を行い、季節を感じられるような掲示物を皆で作って壁に貼っています。トイレや浴室も清潔を保ち不快のないようにしています。過ごす事の多いリビングは光も入り明るい環境です。	施設内はソファやテーブルを設置し、入居者が落ち着いて過ごせる環境作りがなされている。随所に、入居者の作品・写真の掲示や季節飾りがなされており、温かみのある空間となっている。また、エレベーターが設置されており、入居者の身体状況にも配慮した造りとなっている。	

【千葉県】ヒューマンライフケアグループホーム市川

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常のほとんどを過ごすフロアにはソファを配置、気の合う入居者、またはその架け橋になるよう職員が努めている。個人の気持ちも尊重し1人掛けソファの活用も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込み入居前からの生活の継続に繋げ、居心地よく過ごせるよう工夫している。出来る方は職員と一緒に室内の掃除を行っている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。また、テレビ・ポータブルトイレの設置や布団を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりがあり、バリアフリーとなっています。またエレベーターや、玄関にはスロープもあるので館内を移動したり、外に出たしています。トイレにも分かりやすいように印があります。		